1992 年 4 月 17 日第三種郵便物認可（毎月 3 回 7 の日発行）

2022 年　4 月 11 日発行　　SSKR 通巻第 9469 号

SSKR

にじの会だより　Vol.81

社会福祉法人　にじの会
理事長　石崎　優仁
〒181-0015　東京都三鷹市大沢１－６－３
TEL 0422-39-2411
FAX 0422-39-2412
ホームページ：nijinokai.org

第８回ウォーキング大会

心地良い春日和に恵まれた４月８日（金）「第８回にじの会ウォーキング大会」を開催致しました。昨年度は都立公園内での飲食の規制が厳しく、現地でお弁当を食べることができませんでしたが、本年度は青空の下で春の景色を楽みながらお弁当を食べることができました。行先は「野川公園」・「武蔵野の森公園」・「神代植物公園」の３ヶ所に分散して行いました。新年度となり、新たな顔ぶれで迎える初めての大きなイベントでしたが、どのグループも有意義な時間を過ごすことができていました。

未だに毎日多くの感染者数の報告がある状況ではありますが、同時にイベント開催の規制緩和等も進んできています。社会的な動向を注視しつつ、運動活動のイベントもより有意義なイベントとなるよう開催方法を検討していきたいと思います。　（支援専門運動：髙橋祥亮）

＊＊

【野川公園】

【武蔵野の森公園】

【神代植物公園】

1992年4月17日第三種郵便物認可（毎月３回７の日発行）

2022年　4月11日発行　　SSKR通巻第9469号

新型コロナウィルス感染対策・今後のにじの会の取組み

にじの会理事長　石崎優仁

新型コロナウィルス感染は、オミクロン株が主体となった第六波が猛威を振るいピークには１日１０万人超の新規感染者数になりました。３月に入って徐々に減少して重点措置も解除されましたが、依然高水準の感染状況にあり再び感染者増加で第７波の兆しも出ています。

にじの会でも、１月末から施設内感染が発生し利用者・職員全体で５２名の陽性者が出る大きなクラスターとなってしまいました。隔離の徹底、PCR検査の適時実施、３回目ワクチン接種等により、約２週間で新規感染者の発生を止めることができ、２月中旬に事業の再開をいたしました。今回の施設内感染を教訓にBCP計画等を見直して次の施設内感染は防止できるよう感染防止体制の向上に努めており、現在まで新たな施設内感染は発生しておりません。

２０２２年度のにじの会の事業運営の基本方針は「感染予防策を維持しながら社会活動を徐々に再開する」方向としております。今回の施設内感染を踏まえて感染防止体制の強化向上を行いながら、順次社会活動の再開を図ってまいります。

＜事業運営＞

１．行事等の予定

①一泊旅行　　４月２７・２８日～６月１６・１７日に６回実施予定です。
箱根コース２回　千葉鴨川コース４回で２５名以内のバス旅行

②日帰り旅行　６月２４日・７月１日の２回実施予定です。山梨の桃狩りバス旅行

＊旅行参加者は旅行終了時にPCR検査を実施します。

③５月連休の帰省期間　４月２９日～５月５日　無理のない範囲で帰省を実施予定です。

２．短期入所　　通所利用者と前３日以内の陰性確認者に限定した受入れを継続します。

３．就労事業の営業時間　ハーモニーガーデンは火～金は１７時まで・土曜は１９時半までの営業
オーソレミオは１７時まで・大沢ハーモニーは１６時半までの営業

４．地域貢献事業　①大沢地区買い物送迎支援事業は週３回送迎支援・週１回代行支援を実施
②三鷹市内の子ども食堂へのパン・惣菜の無償提供を月１～２回実施

＜PCR検査＞

１．一斉PCR検査は全利用者・役職員対象に毎月１回実施します。

２．生活施設職員の毎週PCR検査は都の現物支給が継続される６月まで実施します。

＜ワクチン接種＞

１．コロナワクチン３回目接種を２月８日に受けられなかった人を対象に５月１３日に大沢にじの里で実施予定です。利用者２９名と一部職員です。

２．他の役職員は２回目から６カ月経過後に個別に接種を受けています。

＜感染予防策＞

１．利用者・職員の予防策の継続
①体調異常時の静養と通院してPCR検査の受検
②通所時の混雑時の時差通勤とマスク着用の徹底
③夜間・週末の外出時は人混みを避け、手指消毒を励行
④家族等に感染可能性がある場合は通所を自粛

２．行動制限を行う外出先
①マスクを外して他人と接する行動・場所
②換気・混雑状況からリスクが高い場所・交通機関
③マスク無しや大声を出す危険がある行動・場所
④感染予防策が不十分な場所

３．職員の感染予防策強化
①職員の健康チェックを１日２回以上実施し、少しでも異常ある場合は早退し通院を徹底します。
②感染可能性がある人が発生した場合、本人は隔離・待機とし早急にPCR検査を実施します。マスク無しで接触した関係者は本人と同様とします。

以上のように、手洗い励行（手指消毒）・マスク着用・３密防止・換気励行等の感染予防策を徹底し、感染リスクのある行動は避け、リスクがある場合はPCR検査を実施し陰性を確認後の利用再開・職場復帰とし、施設内感染の防止を図ってまいります。

1992年4月17日第三種郵便物認可（毎月３回７の日発行）

2022年　4月11日発行　　SSKR通巻第9469号

新型コロナウィルス施設内感染の発生経過について

にじの会理事長　石崎優仁

１月２６日に発生した「オミクロン株による施設内感染」は、新規感染者発生が２月１４日までで終了し２月２１日から全事業所の活動を通常に戻すことができましたが、感染者数５２名という大規模なクラスターであり、これまでの感染対策の弱点も明示されました。今回の施設内感染の発生と対策の経過は以下のようになっています。

１．施設内感染状況

①感染者は利用者３０名・職員２２名　計５２名となっています。

②感染者発生事業所は、生活支援で　大沢にじの里１F・３F、ケアホームにじ・Gホームにじの空
日中支援で　生活介護事業所にじアート・大沢にじの里です。

③感染発生拡大経路は、
大沢にじの里生活支援職員１名が外部で感染、発症前に生活利用者１名　職員１名に感染
発症前の生活利用者から他の生活利用者に順次感染
日中活動の場を通じて他の生活施設の利用者に感染
日中活動の職員に感染
陽性者の生活支援に入った職員が順次感染

＊新規感染者の発生は、利用者は２月１１日まで、職員は２月１４日までとなっています。

２．施設内感染拡大防止のために採った対策

①陽性者・発熱者の隔離
大沢にじの里は各フロア別に隔離し、各利用者は陽性者を個室隔離しました。
１Fは感染拡大のため全員を個室隔離しました。
ケアホームは陽性者のみ個室隔離したが、ホームにじは感染拡大のため全員を個室隔離しました。

②日中活動を休止
感染が発生している大沢にじの里・にじアートの日中活動を休止しました。
同一建物・敷地内の未来工房にじ・にじアート放課後等デイサービスも休止しました。

③職員の感染防止の徹底
支援に入った職員の感染が続いたので、感染者の支援マニュアルを見直し、感染防止を徹底した支援方法に改善しました。

④PCR検査の適時実施
１月３１日（月）～２月２１日に、全利用者・職員のPCR検査を毎週実施しました。
隔離場所で支援に従事した職員は支援終了時に毎回検査を実施しました。
隔離場所で陽性になっていない利用者は、毎日検査を実施しました。

⑤３回目コロナワクチン接種の実施
２月８日に予定していた３回目接種を、陽性者・発熱者を除く全利用者１２１名と接種対象職員４４名に実施しました。

３．隔離の解除と事業の再開

①有症状者１０日、無症状者７日間の隔離解除期間を経過した利用者から個室隔離を解除しました。

②フロア・ホームの隔離は全員が隔離解除の時点で解除としました。

③職員の職場復帰も①の基準で実施しました。

４．今回の施設内感染の発生拡大の要因と今後の対策

①今回の施設内感染は職員の体調異常発見の遅れにより発生しました。熱感やだるさがありながら我慢して勤務したことが原因です。今後は１日２回以上の健康確認を実施し、異常の早期発見に努めます。

②施設内感染が拡大した原因の一つは、隔離対象を直接接触者に限定した事でした。オミクロン株の感染力の強さを考慮すれば、わずかな接触でもマスクをしていない人は隔離対象にすべきでした。

③陽性者支援時の職員の感染防止不足により多くの職員が感染しました。ゾーン設定・防護装備・支援順序・作業方法等の詳細な準備が必要で、今後は改善したマニュアルを活かして支援にあたります

以上のように大規模なクラスターでしたが、２週間で新規感染者発生を止め３週間で事業再開ができたのは、検査機関と連携し適時PCR検査を実施できた事で無症状での感染拡大を防止できた為と思います。

1992 年 4 月 17 日第三種郵便物認可（毎月 3 回 7 の日発行）

2022 年　4 月 11 日発行　　SSKR 通巻第 9469 号

2022 年度の基本方針と重点課題　にじの会理事会

２年前からの新型コロナウィルス感染がオミクロン株の流入で急拡大し第６波の到来になっています。今後も各種の変異株の発生に対応し「コロナとも共生の社会」を考えていく時期になっているようです。また各地で自然災害や震災が続発し地球環境との共生がより重要になっており、同時にコロナ禍で一層拡大している貧富や生活状態の格差の是正と、支え合いの地域社会づくりが私たちの生存に不可欠の段階に来ていると考えています。設立２０周年の昨年度はコロナ対応を最重点にしながらも、制約下での支援内容と活動の充実や ICT 活用の事業運営の開始、記念事業の実施等今後の展開につながる前進ができております。２０３０年に向けた中期計画の設定をベースに、以下のような２０２２年度の基本方針と重点課題を設定いたします。

＜法人組織運営の基本方針＞

＝地域共生社会の一員として SDG s に資する法人運営を目指す。

そのため、以下の重点課題に取組む。

（１）新型コロナウィルス等の感染症対策を強化し施設内感染防止力を向上する。また、地震災害への準備を進めるとともに、地球温暖化に伴う異常気象による災害への対策を強化する。同時に、温暖化防止に資する事業運営を進める。

（２）地域貢献活動として三鷹市大沢地区の買物送迎支援事業や子ども食堂への支援事業を継続して取組むとともに、新川中原地域のケアネット事業や三鷹市社協との連携を進め、地域の支え合いの活動を強化する。

（３）次世代のにじの会を担う法人運営組織体制を確立する。特に、経営戦略・人事制度・情報技術管理を担当する人材の育成を進める。

（４）新型コロナ等の環境の変化を踏まえて、同時に前中期計画の総括に基づいて、次期の中期計画「経営基本戦略２０３０年のにじの会のあり方」を経営会議を中心に設定し、今後の事業運営の基本とする。

＜事業運営の基本方針＞

＝感染症や自然災害への対応力を向上させながら障害者の権利実現への支援と地域生活ニーズへの対応を進める。

そのため、以下の事業運営の重点課題に取組む。

（１）事業運営のリスク対策の取組を進める。

①新型コロナウィルス等の感染症対策 BCP に基づき、対策本部を中心に感染予防策の徹底、PCR 検査の活用、ワクチン接種の励行により施設内感染の防止を図るとともに、陽性者発生時の BCP 計画に沿った対応により施設内感染拡大防止を進める。

②震災対策として各部門 BCP に基づき訓練を実施するとともに、停電・断水等への対応力を向上し事業継続力を強化する。また地域障害者の福祉避難所の準備を進める。同時に地球環境悪化の中で風水雪害対策も強化する。

③利用者の安全確保のため、防犯設備やカメラ画像の活用ルール化を図り、防犯と転倒・誤嚥等の事故防止を進める。

④防災・防犯等の設備強化においては、設備管理の改善と省エネや太陽光発電等の再生エネルギー活用を進める。

⑤文書・情報管理については、効率的な保存と流出防止を確保するために、情報管理体制の確立を図るとともに、過去文書・情報の定期的廃棄を実施する。

（２）利用者及び家族の高齢化への対応を進める。

①利用者の高齢化に対応し、認知症等による機能低下の防止策を工房「えがお」「つむぎ」と高齢化対策プロジェクトを中心に進めるとともに、職員の介護技術の向上を図る。

②要介護状態になった利用者や家族が必要な介護保険サービス等を受けられるよう、相談支援事業を中心に地域包括支援センターや自治体と協同して進める。

（３）「障害者が地域住民の一人として年齢相応の普通の生活をできるように支援する事」を目標に、利用者支援（寄り添う支援）の質の向上を図る。

①各事業所の個別支援計画では、ICF の考え方の理解を深め、利用者の社会参加と意思決定・自己選択の推進を本人のエンパワメントの視点で感染症対策を考慮して計画的に取り組む。

②人権擁護については、継続した研修を実施し、虐待防止マニュアルを徹底して支援の質の向上を進めるとともに、合理的配慮の具体化を図る。

③利用者の自己選択や自己表現を推進するためにタブレット等の ICT の活用を ICT プロジェクトを中心に積極的に進める。

（４）事業収支や事業内容が不安定な事業については、事業運営の安定向上の実現を図る。

①ハーモニー就労支援事業 A 型につき、地域ネットワーク等を活用した事業内容の充実と併せて就労事業収支の黒字確保を図るとともに、支援収支を含めた収支均衡を実現する。

②就労移行支援事業は、高い就労実績を維持するとともに、発達障害や精神障害等への支援能力を向上して利用者の継続的確保を図る。同時に、就労定着支援利用者の増加に努める。

③にじアート放課後等デイサービス事業は、対象利用児童を明示し対応する支援の質と安全を確保する。また、アート生活介護事業との協働を進める。

（５）スタッフの採用・定着・能力向上を継続的に進める体制をつくる。

①スタッフの採用・定着の向上に向けて、勤務方法の多様化、育休・介護休の励行等働きやすい人事制度の改善を実施する。また、高年齢職員の勤務継続を進めるエルダー職員・専門パート等の制度を導入する。採用力の向上に向けては、HP の運用管理体制整備とリモート採用・SNS 発信の強化を図る。

②スタッフの能力向上に向けて、研修の充実と服務規律の遵守を図る。リモートでの所内研修・事業所研修の充実と外部研修受講も進める。にじの会服務規律等を改定したので、浸透と遵守を進める。

③支援・記録・業務・書式の標準化・効率化を業務改善委員会を中心に進める。また、紙ベースの連絡・報告を IT 化しペーパーレスを図る。各部署でチームでの業務改善に取組みチームワーク力の向上を図る。

④事業所運営と利用者支援にあたっては、安全・清潔・挨拶をベースに進める。

２０２２年度　利用者・職員計画

（事業）	（利用者数）	（職員数）
生活支援事業	８９名	５８名
日中支援事業	１０６名	５９名
就労支援事業	６２名	１９名
児童・業務他	６名	２０名
計	**１７４名**	**１５６名**

1992 年 4 月 17 日第三種郵便物認可（毎月 3 回 7 の日発行）

2022 年　4 月 11 日発行　　SSKR 通巻第 9469 号

第 6 回ロードレース大会

春の暖かい陽気の中、２０２２年３月１７日（木）第６回にじの会ロードレース大会を武蔵野の森公園プロムナードで開催しました。昨年度同様、感染症の影響により部門ごとに分散するなどの対策を行った上で大会を実施しました。日頃から長距離走の活動に参加している方が出場し、それぞれの体力に合わせて設定した距離を全員完走することができました。活動やイベントの制約が続く中ですが日頃の活動の成果を発揮し、走り終わった後は皆さん達成感に満ちた表情をされていました。（支援専門運動：髙橋祥亮）

2021 年度生活介護事業支給金外出の実施状況報告

＜大沢にじの里＞

感染症対策を行いながら、深大寺・野川公園・ブックオフ等の外出や館内では調理余暇、大沢生活介護の夏祭りを実施しました。夏祭りではダイニングで盆踊り、館内ではもんじゃ焼き、フルーツジュース等を作り、屋外では金魚すくい、プロジェクター花火等を密にならない様実施しました。普段行かない他工房に行くことで、多くの利用者やスタッフと関わり楽しんでいました。（大沢生活介護　田島多恵子）

＜にじアート＞

新型コロナウィルスの感染状況を見ながら、安全に外出できる場所への外出や外食を楽しみました。TSUTAYA へ本を買いに行く、カラオケを歌いに行く、野川公園でお弁当を食べる、アート近くの「えび三」で釜めしを食べるなど行いました。他にもスタッフがケーキ屋に行ってショーケースを撮影し、工房にてリモートで映し出される画面から食べたいケーキを選ぶリモート買い物も行いました。今後も「コロナだから出来ない」ではなく「コロナだからこそ出来る事」を実践していきます。（にじアート　時田秀明）

1992 年 4 月 17 日第三種郵便物認可（毎月 3 回 7 の日発行）

2022 年　4 月 11 日発行　　SSKR 通巻第 9469 号

家族との連携報告

＜第 81 回施設家族連絡会＞

新型コロナウィルス感染動向の考慮し、昨年に引き続き今回の施設家族連絡会は三鷹産業プラザ７Ｆにて実施することになりました（３月２７日　日曜日）。今回は会場の都合上、２箇所に分けて全体会を実施し、第一会場の模様を第二会場にてＺＯＯＭアプリケーションを活用することで、プロジェクター通じスクリーンで放映する形を取りました。今回は初めてそのような内容での施設家族連絡会ということで、綿密な準備を進めてきましたが、おかげさまで当日は大きな不具合もなく、無事第一会場の様子（各事業計画報告、第三者評価報告、20 周年記念式典動画等）を、第二会場にご来場頂いたご家族の方々へ、映像中継することが出来ました。席配置についても前回同様指定席とし、前後左右との一定距離を取り感染症対策を講じました。またマスク着用の徹底、受付での検温・手指消毒・パーテーション・入退室時の一定順列ご案内等、様々な感染症対策でご対応させて頂きました。

今後もさらなる感染症対策を講じ、安心・安全な施設家族連絡会を実施していきます。ご来場頂いたご家族のみなさま、ご協力ありがとうございました。　　（感染症対策本部　事務局 新津健朗）

第一会場 704・705 会議

第二会場 701・702 会議

＜個別支援計画検討会議＞

個別支援計画は本人が望む生活が実現できるような支援を行なうための「計画」です。利用者の「できないこと」ではなく、「どのような支援があれば、どのようなことができるか」ということを焦点に作成するものであることとし、本人のエンパワメントやＱＯＬの向上を図るために、支援者としていかに支援していくかということを明記したものであることを基本コンセプトとしています。個別支援計画検討会議は毎年 3 月に実施しています。個別支援計画は 3 ヵ月毎のモニタリングと 6 カ月毎に中間総括と総括をして、利用者、ご家族に報告の面談を実施してきました。個別支援計画検討会議の目的は「アセスメント(シート)」の内容をふまえたうえで「個別支援計画書」の作成をすることです。モニタリングとは計画にもとづく支援の中間的な評価をすることです。また会議は利用者本人や家族の参加を原則としています。２０２２年度の個別支援計画検討会議は新型コロナウィルス感染予防のため、ご家族、利用者より文書による質問用紙と施設側からは返答用紙を使用して実施しました。また必要な方には電話で状況を報告させて頂きました。　　（大沢にじの里　田中克樹）

＜１月　第 2 回日中活動動画配信＞

今回で 2 回目となりました工房活動の動画配信。前回よりも配信期間を長くし、多くの方にご視聴頂けたかと思います。昨今のコロナウィルス感染症対策の為、実際の日中参観が出来ない分それぞれの工房で趣向を凝らして作成致しました。また今回は工房活動だけでなく、クリスマス会で視聴したスタッフによるクリスマス動画も配信しました。こちらもご覧いただきありがとうございました。

配信に関して頂きましたご意見は今後の動画配信に生かして参りますので、よろしくお願いいたします。

1992 年 4 月 17 日第三種郵便物認可（毎月 3 回 7 の日発行）

2022 年　4 月 11 日発行　　SSKR 通巻第 9469 号

2022 年度の年間スケジュール

２０２２年度の行事等の予定は以下の通りです。

◆行事予定

４月　８日（金）		ウォーキング大会
１０月２９日（土）		にじの会まつり
１１月１８日（金）	予定	スポーツ大会
１２月２３日（金）		クリスマス会
１月　６日（金）		成人式
２月～３月		文化行事

◆宿泊旅行

４月２７日（水）～４月２８日（木）	箱根①
５月１９日（木）～５月２０日（金）	千葉①
５月２６日（木）～５月２７日（金）	千葉②
６月　２日（木）～６月　３日（金）	箱根②
６月　９日（木）～６月１０日（金）	千葉③
６月１６日（木）～６月１７日（金）	千葉④

◆日帰り旅行

６月２４日（金）	山梨①
７月　１日（金）	山梨②

◆帰省・休業期間

４月２９日（金）～	５月　５日（木）	５月連休
８月１１日（木）～	８月１７日（水）	夏休み
１２月２９日（木）～	１月　４日（水）	正月休み

◆施設家族連絡会

９月１７日（土）　全体会（生活懇談会）

３月２５日（土）　全体会（生活懇談会）

※日中参観はリモート動画での参観とします。

『にじの会だより 81 号』　定価　50 円

発行所：特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

〒157-0072　東京都世田谷区祖師谷 3-1-17　ヴェルドゥーラ祖師谷 102 号

TEL:03-6277-9611　FAX:03-6277-9555

編集人：社会福祉法人にじの会

〒181-0015　東京都三鷹市大沢 1-6-3　TEL：0422-39-2411　FAX：0422-39-2412